

第 6 回 衛星情報共有の取り組み 発表会 報告書

2013 年 8 月 14 日

日本大学 嶋崎信吾

UNISEC/UNISON 衛星ワーキンググループでは 2013 年 7 月 27 日に衛星情報共有の取り組みとして第 6 回の発表会を実施した。以下、本発表会の実施結果を報告する。

1. 目的

1.1. 本取り組みの目的

UNISEC 衛星団体に技術情報を共有し以下の効果を狙う。

- 各団体での開発活動の促進
- 将来的にUNISECとして、加盟団体が協力し一つのことを行う基盤作り

1.2. 本発表会の目的

- 口頭での発表による正確かつ効率的な情報共有の実施
- 発表者が発表と質疑応答を通じたその場でフィードバックを得られる機会の提供

2. 開催日時・開催場所

発表会の開催日時および概要を表 1 にまとめる。

表 1 発表会概要

日時	2013 年 7 月 27 日(土) 10:30-15:00
場所	東京大学 本郷キャンパス 工学部 7 号館 2 階 73 号教室
発表テーマ	「C&DH」
発表大学	合計 4 大学
参加者数	45 名
参加団体 (50 音順)	大阪府立大学, 香川大学, 鹿児島大学, 九州大学, 高知工科大学, 神戸大学, 芝浦工業大学, 首都大学東京, 創価大学, 筑波大学, 東海大学, 東京大学, 東京理科大学, 東北大学, 都立産業技術高専, 日本大学 以上 16 団体

3. 当日の流れ

3.1. タイムテーブル

当日は表 2 に示すタイムテーブルを設定し運営を行った。実際の発表会も概ねこのスケジュールに沿う形で進行した。

表 2 タイムテーブル

開始	終了	内容	担当者
10:30	10:45	「衛星 WG 情報共有の取り組み」に関する説明	[運営]嶋崎(日大)
10:45	10:50	諸注意・アンケート説明	[運営]賀来(産技高専)
10:50	11:15	BoCCHAN-1 とほどよし SDK の利用による効率的な C&DH システムの構築	[理科大] 高野 慎治
11:15	11:40	IDEA の BBM の C&DH について	[九大] 瀬戸 裕基
11:40	12:40	ポスターセッション	-
12:40	13:45	休憩	-
13:45	14:00	情報整備推進委員会 活動報告	[運営] 嶋津(筑波大)
14:00	14:25	KSAT2 の衛星制御システム	[鹿児島大] 和合 佐友里
14:25	14:50	RAIKO の C&DH について	[東北大] 橋本 達明
14:50	14:55	最優秀ポスター賞 発表	[運営]嶋崎(日大)
14:55	15:00	終わりの挨拶・アンケート回収	[運営]嶋崎(日大)

3.2. 発表会内容

初めに、今回の発表会が 2013 年度初めてとなる衛星 WG の取り組みであったので取り組みに関する説明と誓約書・取り組み規約に関する説明を行った。

今回の発表会は「C&DH」をテーマに選び、合計 4 件の発表を実施した。各発表の時間配分については、前回・前々回とアンケートで好評価を頂いていた発表 15 分、質疑応答 10 分の配分を維持して進行した。

また、今回は 2013 年度初めての UNISEC としての会合ということもあり、各団体活動内容を紹介するポスターを持参して頂き昼休憩の時間を利用してポスターセッションを行った。昨年 7 月に行ったポスターセッションでは時間の短さや会場の狭さを指摘されていたので、今回は時間を 1 時間(+昼休憩時間分)、会場として教室を 1 部屋借りる等して改善を行った。ポスターセッションとして自由に動き回れるブレイクタイムがあることにより、

発表会の質疑応答時のみならずそれ以外の場でも学生間で盛んな議論が行われた。
発表会及びポスターセッションの様子を以下に示す。



図 1 発表会・ポスターセッションの様子

今回も発表会の終了後にアンケートを実施した。その結果を次節に示す。

4. アンケート集計結果

当日行ったアンケートのうち、発表会全体に関する項目の集計結果を以下にまとめる。

4.1. 今回の発表会について

参加者が発表会の良否を 1～5 (悪～良に対応)の 5 段階で評価し、表に示す結果を得た。全体の平均は 4.64 であり、前回に引き続き参加者より非常に高い評価をいただいている。

表 3 発表会良否集計結果

評価	1	2	3	4	5
票数	0	0	0	10	18

回収した意見の中には、C&DH 系の様々な知識が聞けて良かったという意見が多かった。今回の発表会は会として 1 つの答えを求めるタイプのテーマではなく、各団体の C&DH 系に関する創意工夫について紹介しそれを参考にして自団体の活動に活かしてもらおうという狙いがあったので、アンケートでこのような結果を得られたことは良かったと言える。

4.2. ポスターセッションについて

ポスターセッションに関しても良否を1～5（悪～良に対応）の5段階で評価し、表に示す結果を得た。全体の平均は4.41となっている。

表 4 ポスターセッション良否集計結果

評価	1	2	3	4	5
票数	0	0	3	11	15

ポスターセッションに関しても活発な意見交換ができて有意義だったという意見を頂いている。前回のアンケート結果から終日ただ発表を聞き続けるのは辛いという意見があり、各団体に気軽に質問することができる場を提供することができたことは良かったと言える。

一方で、「テーマをしぼった方が良いのではないか」という意見を頂いており、今後のミニイベント開催の際の参考としていきたい。

4.3. 次回テーマについて

次回の発表会で希望するテーマについては「環境試験(振動・衝撃試験, 放射線試験, 評価方法)」「C&DH」を望む意見が多かった。まだ発表会として扱っていないテーマは振動・衝撃試験であり、次回発表テーマを選定する際の参考としたい。

4.4. 取り組みへの参加について

今後、本取組へどのように参加したいかを「企画側」、「発表者」、「どちらでもない」の3択の選択式として質問した。回答の集計結果は以下の通りとなった。

- 企画側として参加したい: 13名
- 発表者として参加したい: 9名
- どちらでもない: 7名

衛星 WG も年々規模が拡大してきており、新規に参入してくれる人材を受け入れられるだけの体制の整備を迅速に行う必要があると考えられる。それは、衛星 WG のみならず、他 WG や UNISON 全体としても同様のことが言えるのではないかと推察する。

5. 総括

2013年7月27日に本取組み6回目となる発表会を実施した。

発表会の準備・運営に関しては、前回までに挙がっていた問題点を改修し、大きな混乱もなく円滑に発表会を運営することができたと考えている。

今回の発表会では今年度から新たに立ち上げられた情報整備推進委員会からの報告やアンケートの実施も行った。発表会のみならずこちらも多くの意見を頂くことができ、多くの要望を把握することができたと考えている。発表会運営委員会とともに情報整備推進委

員会の方も今回得た要望を踏まえた上で新年度の活動を行っていく予定である。

情報共有発表会が定常化されある程度運営が安定してきたので、今後の発表会は各団体の発表のみならず技術交流や情報共有、活動方針の議論が行える場を提供していくように運営のあり方を検討していくことも視野に入れ、議論を行っていく予定である。

謝辞

本発表会の開催にあたっては会場の確保から発表会への参加まで様々な場面で多くの先生方にご協力を頂きました。感謝致します。